

# 日本社会情報学会ニュース

第25号 2005. 10.17

- I 2005年度第10回研究大会を終えて
  - II 2006年度第11回研究大会のあり方について
  - III 2005年度第11回総会について
  - IV 事務局の移転について
  - V 研究委員長交代について
  - VI 会費納入のお願い
  - VII 事務局より
- .....

## I 2005年度第10回研究大会を終えて

### 日本社会情報学会(JSIS)第10回大会の報告

大会実行委員長 阿部圭一

おかげ様で、9月12-14日に京都大学で開催された第10回研究大会は無事終了いたしました。参加・講演・発表・討論してくださった方々、座長の方々、その他運営にご協力いただいた方々に、大会実行委員長として深く感謝申し上げます。

今回の大会はJASIとの合同大会というだけでなく、社会情報学フェアという大きな催しの一部として開催しましたので、戸惑われた面も多かったのではないかと存じます。2日目のB5-1産業・経済のセッションでは、パソコンとプロジェクタとの接続に問題があり、発表者・座長の方々に大変ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。その他、不行き届きの点がありましたかもしれませんが、ご容赦ください。

今年の記念すべき第10回大会は、もう一つの日本社会情報学会(JASI)と合同で、かつ、より大きな社会情報学フェアという催しの一環として行われました。

社会情報学フェアとしてはJSIS-JASIの合同大会に合わせて、社会情報学国際シンポジウムとして3つの招待講演とパネル「都市と情報」が行われたほか、京都大学情報学研究科社会情報専攻、京都大学知識社会基盤COE、情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会、電子情報通信学会マルチメディア・仮想環境基礎研究会、同人工知能と知識処理研究専門委員会、情報通信学会関西支部などが企画した盛りだくさんのシンポジウム等が併催されました。

3日間ともお天気に恵まれ、フェアとしての参加者数は、700名を越えたとのこと。内訳は、JSIS+JASIで約200、理系の情報処理学会と電子情報通信学会で約200、残り300がその他ということになり、かなり広い層からの参加があったようです。

座長の皆様をお願いして集めていただきました各セッションごとの参加者数を下記の表に示します。

これを見ますと、JSIS-JASI間では、それほど多くの会員が相互に相手方のセッションを聴くという状況にはなかったようです。たぶんJSIS会員でJASIのセッションを聴きに行った人もあまり多くはないだろうと思います。これはJSISだけでも3セッション並列、JASIは5セッション並列ということから、ある程度やむを得ないように思います。

それでも、単独大会でのセッション別の参加者数の記録は持っていないので、単なる印象として書きますと、単独大会に比べて参加者が50%増しくらいにはなっているように感じます。

注目すべきは、JASIでもJSISでもない人が延べ49人(28%)も聴いていることで、これには他学会からの参加者も含まれているとは思いますが、大多数は学生ではないかと考えます。ということは、次の時代を担う若い人たちや、社会情報学に関心のある広い層に参加を広げていくためには、両学会が合同で(あるいは今回のようにもっと広げて)大会を行うことの意義は大きいと考えます。

残念ながら、フェア全体の収支決算がまだ終わっていないため、JSIS 大会の決算もまだご報告できません。当初の収支計画より参加者数が多かったため、黒字になる（大会運営費として計上してあった予算¥400,000 が、少なくて済む）ことを期待しております。

#### 第10回研究大会セッション別参加者数

セッション番号	セッション名	JSIS	JASI	両方	その他	計
B3-1	基礎1	13	0	0	4	17
B3-2	メディア・コミュニケーション1	9	1	0	7	18
B3-3	地域1	16	1	0	3	20
B4-1	基礎2	11	0	0	7	18
B4-2	メディア・コミュニケーション2	10	0	0	2	12
B4-3	地域2	14	1	0	2	17
B5-1	産業・経済	7	0	1	2	10
B5-2	個人・プライバシー	11	0	0	3	14
B5-3	地域3	10	1	0	2	13
ワークショップ4	電子化と個人情報の保護	7	2	0	7	16
ワークショップ5	ケータイ、ネット利用と国民性	9	1	1	10	21
合計		117	7	2	49	176

#### 2006年度以降の大会のあり方について

社会情報学フェア終了後、フェア全体の実行委員長の京大石田亨先生から、「こういう催しを頻繁にやりたい」という提案がありましたが、主催者側に相当な負担がかかるため、何年かに1回というのが現実的であろうと思います。

そこで当面問題となるのは、来年度（以降）も JASI と合同で大会を開催するかどうかですが、すでに JASI からは来年度も合同で開催したいという申し入れを受けています。JSIS として、来年度以降も JASI との合同大会という形式を続けるかどうかは、今大会にたいする会員の皆様のご意見を伺って決めたいという方針でしたので、どうか忌憚のないご意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします

## II 2006年度第11回研究大会のあり方について

日本社会情報学会（JSIS）第10回研究大会は、上記の阿部実行委員長の報告にもあるように、成功裏に終了することができました。そこで、当学会としては、次年度の開催について、その形態（単独開催か合同開催か）をどうするのか、早急に決めなければなりません。

この点に関しましては、去る9月12日開催の第11回総会で、田崎会長より、「今大会に対する会員の皆様の評価をお寄せいただいてから決めたい」との方針が示されました。そこで、この度、阿部実行委員長より、京都大会についての報告を掲載することができましたので、それを踏まえて、改めて、会員の皆様のご意見をお寄せいただきたいと思ひます。

ただ、この場合、来年度だけの開催形態についてお聞きするのか、来年度以降も継続してどちらがいいのかをお聞きするのか、両方の論点を含めると、質問（ならびに回答）が複雑になりますので、とりあえず、今回は、「来年度はどちらの形態がよいか」という形で、以下の2つの意見のうちの二者択一にしたいと存じます。

- ・ 来年度は、単独開催がよい。
- ・ 来年度も、合同開催がよい。

この2つのうち、いずれかを選んで、同封のハガキに記入していただき、**10月31日までに**、事務局に届くように投函していただくようお願いいたします。また、自由記入欄も設けましたので、今年度の合同大会についてのご意見や、来年度「単独」開催あるは「合同」開催のいずれかを選ばれた理由等、何なりとご記入のほどをお願いいたします。

また、ご意見をお寄せいただく方法としては、WEB 上におきましても、返信できるように致しましたので、ハガキか、WEB か、いずれかの方法で、出来るだけ多くの方々にご意見をいただけるようお願いいたします。

web アンケート → <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/taikai/>

### III 2005年度第11回総会について

2005年度第11回総会は、9月12日(月)午後4時30分より、当日の参加者42名、委任状83名の参加(合計125名、定足数118名)を得て、京都大学工学部校舎において開催されました。田崎篤郎会長の挨拶に続き、開催校の京都大学から石田亨先生より歓迎のご挨拶をいただきました。引き続いて、田崎会長を議長として、以下のような事項が、報告ならびに審議されました。

#### 【報告事項】

(1) **一般事務報告** 前納理事より、前年度第10回総会以降の理事会開催状況ならびに審議事項につき、以下の通り報告された。

#### ◆第36回理事会・2005年1月29日(土)

1. 第35回理事会議事録(案)の承認について
2. 入・退会の承認について
3. 2005年度第10回研究大会の開催について
4. 次期理事の選出選挙について
  - ①時期と方法について
  - ②選挙管理委員会について
  - ③選出対象となる会員について
  - ④その他
5. 副会長代行について
6. 次回理事会の開催について
7. その他

#### ◆第37回理事会・2005年4月2日(土)

1. 第36回理事会議事録(案)の承認について
2. 入・退会の承認について
3. 2005年度第10回研究大会の開催について
4. 次期理事の選出選挙について
  - ①時期と方法について
  - ②選挙管理委員会について
  - ③選出対象となる会員について
  - ④その他
5. 次回理事会の開催について
6. その他

#### ◆第38回理事会・2005年6月4日(土)

1. 第37回理事会議事録(案)の承認について
2. 入・退会の承認について
3. 2005年度第10回研究大会の開催について
4. 次期理事の選出選挙について
5. 選挙権の認定について
6. 投票依頼文書について
7. 次回理事会の開催について
8. その他

#### ◆第39回理事会・2005年8月11日(木)

1. 第38回理事会議事録(案)の承認について
2. 入・退会の承認について
3. 2005年度第10回研究大会について
4. 次期理事選出選挙の結果について
5. 次回理事会の開催について
6. その他



◆第40回理事会・2005年9月12日(月)

1. 次期理事による次期会長・副会長の選出について
2. 第39回理事会議事録(案)の承認について
3. 入・退会の承認について
4. 2005年度学会研究奨励賞について
5. 次期会長・副会長の選出結果について
6. 2004年度決算(案)および会計監査について
7. 2006年度予算(案)について
8. 2006年度第11回研究大会の開催について
9. 第10回総会議題(案)について
10. 次期理事会の開催について
11. その他

以上の報告に続いて、炭谷事務局長より、2005年9月12日現在、会員数は458名であること、また、会費納入状況についてはここ数年低下傾向にあることが報告され、会員のご協力をお願いすると共に、納入率を上げるための今後の対応が必要との報告がなされた。

(2) 学会誌編集委員会 音理事より、『社会情報学研究』2006年度第1号ならびに第2号の発行準備についての報告がなされた。

(3) 学会賞選考委員会 吉井理事より、2005年度日本社会情報学会研究奨励賞を、川島安博会員(東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程在学)著「コミュニティチャンネル視聴頻度と地域意識の相関性に関する再検討——諏訪市ケーブルテレビ加入者調査のデータをもとに」(『社会情報学研究』2004年、第9巻第2号所収)に贈呈したい旨、理事会ならびに総会に諮ったところ、異議なく承認され、直ちに、受賞者に対して表彰状ならびに金一封の贈呈式が行われた。これを受けて、川島会員から、謝礼の挨拶があった。



(4) 2006年度第11回研究大会について 田崎会長より、次年度の研究大会の開催に関して、今年のように、JASIとの「合同」にするか、それとも、JSIS「単独」にするかは、今大会の評価について、会員の意見を集約してから決めることとしたいとの方針が示され、近日中に、会員からの意見集約の方途を具体化することとなった。

(5) その他 その他の報告事項は特になかった。

【審議事項】

(1) 第10回総会議事録(案)の承認について 以下の議事録が承認された。

第10回日本社会情報学会総会議事録(案)

日時：2004年10月2日(土) 16:50~17:50

場所：茨城大学教育学部 3階30番教室

当日の理事会開催時点で、10月1日現在の会員数453名に対して、本人出席30名、委任状92通、計122名で、定足数118名を上回っていることを確認し、田崎篤郎会長の指名により阿部圭一副会長の議長として開会した。

【会長挨拶】 田崎篤郎会長より、本学会は、社会情報研究ないし社会情報学の発展に貢献する意義は大きく、これまでも特色ある研究成果を残し、学会誌の年間2度の刊行も順調に進んできている。今後も、ますます社会情報学の発展に貢献し、この分野での研究をリードしていくことの出来る学会に育てていきたい。ついては、会員の皆さんのなご協力をお願いしたい。また、研究大会を引き受けていただいた茨城大学の関係者の方々に対する感謝の言葉が述べられた。

【開催校挨拶】 田代尚弘茨城大学教育学部長より、今年度の研究大会を引き受けるについては、当教育学部は、社会情報学研究に直接関連する学部ではなく、社会情報学研究に携わるスタッフも多いわけではないので、必ずしも開催校として相応しい学部ではない。しかし、現代社会における情報のあり方を考えてみると、教育の問題にも密接に関連した問題も多いので、教育学部との関連もまったくないわけではない。この2日間、実り多い議論を期待しつつ、出来るだけの対応をしていきたい、との挨拶をいただいた。

【報告事項】

(1) **一般会務報告** 前納総括理事から、第9回総会（2003年10月18日）以降の理事会の開催状況、ならびに、審議議題についての説明がなされた。続いて、炭谷事務局長より、2004年10月1日現在、会員数は453名に達していること。また、ここ数年の会費納入状況は会員数の伸びとは反比例して低下傾向にあることが報告され、会費納入については今後とも会員のご協力をお願いするとともに、事務局としても、納入率を高めるための具体的な対応を図りたいとの報告がなされた。

(2) **学会誌編集委員会** 音理事より、現在、『社会情報研究』2004年度第1号発行に向けて編集作業を進めており、15本の論文のうち9本が査読合格の認定を受けて戻ってきている。作業は、例年と比べて約一ヶ月程度の遅れが認められるとの報告があった。

(3) **研究委員会** 正村理事（西垣理事の代理）より、第9回総会以降の研究会活動として、東京地区では全3回の研究会を開催してきたことが報告された。また、東北信越地区においても開催し、北海道地区では事情により延期になったとの報告がなされた。

(4) **学会賞選考委員会** 吉井理事より、2004年度日本社会情報学会研究奨励賞の選考を重ねてきた結果、今年度は、金相美会員（東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究博士課程）著「オンライン・コミュニケーション利用と社会的スキル」（『社会情報学研究』第8巻第2号、2003年刊）に贈呈したい旨、理事会ならびに総会において承認され、直ちに、受賞者出席のもとに贈呈式が行われた。

(5) **2005年度第10回研究大会について** 田崎会長より、2005年度の研究大会開催に関して、もうひとつの「日本社会情報学会」との合同で実施する方向が検討されているとの報告がなされた。「合同開催」のような形で行うのか、それとも他の方法での開催を考えるのか、早急に、検討を要する問題でもあるので、理事会では、阿部・伊藤の両副会長のほか研究委員会委員が加わって「協議会」を形成し、次年度大会の具体的な開催方法について検討していくことにしたいとの方針が示され、総会での了解が得られた。

(6) **その他** その他の報告事項は特になかった。

#### 【審議事項】

(1) **第9回総会議事録（案）の承認** 別紙配布資料のとおり、第9回総会議事録（案）の承認がなされた。

(2) **学会規約の改正について** 田村理事より、日本社会情報学会規約のうち、会長・副会長の選出方法ならびに理事の三選禁止規定の導入に関する箇所の一部改正について、以下のとおり、提案内容ならびに提案理由が説明された。

（この部分に関する具体的な内容は、すでに、「学会ニュース第21号」に掲載しておりますので、ここでは割愛させていただきます。）

(3) **名誉会員の推薦について** 田崎会長より、高木教典会員（2000年4月1日～2004年3月31日、会長に就任）と、金子ハルオ会員（2000年4月1日～2004年3月31日、副会長に就任）の2名を名誉会員に推薦したい旨、理事会に提案したところ異議なく承認され、引き続き、総会の承認を得たいとの提案がなされ、満場一致でこれを承認した。

(4) **2003年度決算（案）および会計監査について** 炭谷事務局長より、2003年度の決算（案）が報告され、引き続いて、林監事より2003年度会計監査報告が別紙配布資料のとおりなされ、異議なく承認された。

(5) **2005年度予算（案）について** 炭谷事務局長より、2005年度の予算案が説明され、原案どおり異議なく承認された。

(6) **その他** その他の審議事項は特になかった。

(2) **次期理事・監事の選出結果について** 理事会では、本年7月に実施した次期理事選出の結果について、島崎哲彦理事選出管理委員会委員長より報告を受け、それにもとづき、次期理事（選出理事10名、推薦理事5名）を、以下の15名に委嘱したいとの理事会での決定を受け、総会では、原案どおり異議なく承認された。

#### 選出理事

- (東北) 正村 俊之 (東北大学)
- (関東) 伊藤 守 (早稲田大学)
- (関東) 音 好宏 (上智大学)
- (関東) 黒須 俊夫 (群馬大学)
- (関東) 炭谷 晃男 (大妻女子大学)
- (関東) 田村 泰彦 (群馬大学)
- (関東) 西垣 通 (東京大学)
- (関東) 前納 弘武 (大妻女子大学)
- (関東) 森谷 健 (群馬大学)
- (中部) 阿部 圭一 (静岡大学)

#### 推薦理事

(北海道) 長田 博泰 (札幌学院大学)  
(関東) 須藤 修 (東京大学)  
(近畿) 黒葛 裕之 (関西大学)  
(中国四国) 今田寛典 (呉大学)  
(九州) 杉山あかし (九州大学)

#### 監事

小林 宏一 (東洋大学)  
松田 美佐 (中央大学)

#### (3) 次期会長・副会長の選出結果について

本学会規約第 14 条(1)は、「会長及び副会長は新たに選出された理事の互選により選出し、総会の承認を得なければならない」と定めている。このため、理事会は、理事選出選挙の後、「新たに選出された理事」による無記名投票により、次期会長・副会長の選出を行った。その結果は、「総会の承認を得なければならない」と定められており、以下の結果が、田崎会長より本総会に諮られた結果、異議なく承認された。

会長 阿部 圭一  
副会長 伊藤 守  
副会長 前納 弘武

#### (4) 2004 年度決算(案)および会計監査について

炭谷事務局長より、2004 年度の決算報告がなされ、以下の通り、異議なく承認された。

	2004 年度予算(a)	2004 年度決算	(a)-(b)
前年度繰越金	1,000,000	776,959	223041
<b>収入</b>			
学会費他	3,400,000	2,595,430	626368
預金利子	0	6	6
学会誌売上	0	0	0
<b>収入合計</b>	4,400,000	3,372,395	1049403
<b>支出</b>			
大会運営費	400,000	408,265	8265
学会誌発行費	850,000	802,998	47,002
研究委員会	250,000	20,140	229,860
会誌編集委員会	400,000	294,773	105,227
理事会運営費	750,000	725,689	24,311
会費自動振込手数料	50,000	21,798	28,202
人件費	450,000	337,400	112,600
通信費	300,000	171,578	128,422
消耗品費	250,000	267,643	17643
学会賞	150,000	50,000	100,000
予備費	550,000	153,930	396,070
<b>支出合計</b>	4,400,000	3,254,214	1,145,786
2005 年度繰越金	-	118,181	

- ◆ 以上の決算報告にもとづき、炭谷事務局長（監事代理）より、以下の通り、会計監査報告がなされ、異議なく承認された。

## 2004年度会計監査報告書

標題の件につき、以下のとおり報告いたします。

1. 2004年度の会計に関する領収書及び預金通帳などは、すべて揃っており、支出記録とも合致しており、結論として、とくに問題とすべき箇所はなく、適正な収支が行われていると判断する。
2. 2004年度の収入については、予算に比べて大幅な減少になっているが、その主な理由は、一部会員の会費未納によるものと考えられる。しかし、支出については、多くの項目において、予算内の支出にとどまっている。以下、支出に関して、若干の点を付言しておく。
  - ①2003年度より学会誌が年2回刊行の体制になり、学会誌発行費がふくらむことが予測されたが、ほぼ予算の範囲の執行額となった。
  - ②理事会運営費については、学会誌発行費に次ぐ額となっている。2006年度からは理事の人数も減少することになるが、理事会のより合理的な運営を期待したい。
  - ③研究委員会経費については、決算額が予算額をかなり下回っており、この点は従来から、関係委員(ならびに会員)の無償の活動によって担われている部分があり、今期もその傾向を反映しているものと思われる。
  - ④人件費について、決算額は予算額の約3/4となっている。この点は、事務局の努力が大きいものと考えられる。
  - ⑤通信費については、前年度比約40%となり、事務局の努力で大幅な減額となった。
4. 以上、今年度の会計処理は、健全な形で運用されているものと認めることができる。しかし今年度はじめて、収入と支出の額が均衡し、その結果次年度繰越の額がきわめて少額となった。次年度以降、健全会計を維持していくためには、会員の増加を図るとともに、何よりも、会費納入率の向上に向けての格段の努力が必要であると考えられる。いっそう事務局の合理的な学会運営に期待したい。

2005年9月7日

監事 林 茂樹 ㊞

監事 水越 伸 ㊞

### (5) 2006年度予算(案)について

炭谷事務局長より、2005年度の予算案が説明され、以下の通り、承認された。

#### 2006年度予算案

収入		支出	2006年度予算案	2005年度予算
会費	3,000,000	大会運営費	400,000	400,000
繰越金	1,000,000	学会誌発行費	850,000	850,000
		会誌編集委員会運営経費	300,000	400,000
		研究委員会運営経費	250,000	250,000
		学会賞(含選考経費)	150,000	150,000
		会費引落手数料	50,000	50,000
		理事会運営費	650,000	750,000
		理事選出選挙経費	0	100,000
		人件費	350,000	450,000
		通信費	200,000	300,000
		消耗品費	200,000	250,000
		名簿作成費	300,000	-
		予備費	300,000	450,000
	<b>4,000,000</b>	<b>合計</b>	<b>4,000,000</b>	4,400,000

(6) その他 その他の審議事項はなかった。

#### IV 事務局の移転について

本学会の事務局が移転することとなりました。過去4年間にわたって、大妻女子大学社会情報学部に事務局を置いてきましたが、2006年4月より、札幌学院大学社会情報学部で、お引き受けいただくこととなりました。旧事務局担当と致しましては、会員の皆様のご協力に感謝すると共に、新事務局に移りましても、尚一層のご協力をお願いしたいと存じます。

#### V 研究委員会委員長の交代について

研究委員会の委員長が交代になりました。これまで、西垣通理事が担当してきましたが、公務多忙につき、過日の総会以降、正村俊之理事に交代することとなりました。よろしくお祈りします。

#### VI 会費納入のお願い

本年度の会費をまだ納入されておられない方がございます。今回、会費未納のある会員につきましては、会費納入のお願いをさせていただいています。10月13日の時点で資料作成いたしましたので、行き違いで請求をいたしました場合にはどうぞお許してください。

多年度未納の方につきましては、学会誌の発送を差し止める等、ご不便をおかけすることもございますが、会の円滑な運営のためにどうぞご協力をお願いいたします。

#### VII 事務局より

大変遅くなりましたが、会員名簿ができあがりしましたので、同封させていただきました。なかには、所属、住所等について古い情報のまま掲載されている方もございます。基本的には、名簿の情報につきましては、ご本人の申し出により修正することを原則としています。事務局で勝手に修正をすることは差し控えております。ご理解いただければ幸いです。

つきましては、名簿をご確認の上、修正が必要でしたら、学会事務局までどうぞお知らせください。特に、e-mail アドレスの変更を届け忘れる場合がございます。どうぞ宜しくご確認ください。また、名簿不掲載にしたい項目についても、ご本人の申し出により掲載をしておりますので、その点についてもご理解ください。

日本社会情報学会事務局 〒206-8540 東京都多摩市唐木田2丁目7番地1号

大妻女子大学社会情報学部内

TEL:042-339-0056・0071・0036

FAX:042-339-0044・0056

e-mail : [s-info@otsuma.ac.jp](mailto:s-info@otsuma.ac.jp)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/>